別紙様式１

平成２９年度学長戦略経費（重点分野研究プロジェクト）進捗状況報告

（平成３０年３月）

報告者氏名・所属	古地順一郎・函館校
研究プロジェクトの名称	人口減少地域における大学と地域の協働関係と人材養成に関する研究―ソーシャルクリニック・モデルの構築に向けて―
プロジェクト担当者 （氏名・所属・職） ※代表者に●を付すこと	●古地順一郎　・函館校・准教授 根本 直樹　・函館校・教授 池ノ上真一　・函館校・准教授 伊藤 泰　・函館校・准教授 齋藤 征人　・函館校・准教授 三上 修　・函館校・准教授 村田 敦郎　・函館校・准教授 森谷 康文　・函館校・准教授 藤井 麻由　・函館校・講師

研究プロジェクトの概要等

人口減少が進む地域において、地域と大学が協働関係を築くことで、地域の活性化および地域の創生をすることが求められている。そこで、函館校が昨年度から展開しているソーシャルクリニックの実践を通じて、どのような協働関係を築けるのか、そのプロセスを含めて検証する。さらに、大学が有するさまざまな知的資源や人的資源を地域が利用し、地域の課題解決に向けて地域住民が自ら動き始める仕組みづくりに関する研究も行う。また、函館校が中心となって進める国際地域イノベーター人材養成プログラムの開発も行う。

進捗度	2	←番号を記入　１.順調に進んでいる　２.ほぼ順調に進んでいる ３.やや遅れ気味　４.遅れ気味

（進捗度が３若しくは４の場合、問題点等の理由を記入願います。）

研究実績の概要

１．江差ソーシャルクリニックにおける実践事例の蓄積

2年目となる今年度は、江差町の地域課題に対するニーズに合わせて以下の活動を実施した。

（１）江差野球教室

今年度初めて実施した企画。大学生による野球指導を望む江差町側の要望に対して、本校硬式野球部が平成29年4月16日に野球教室を実施し、江差中学校及び江差北中学校の野球部員15名が参加。本校の課外活動とソーシャルクリニックをつなげる一つのきっかけとなった。

（２）エエまちづくり

より多くの学生に江差町を知ってもらい、学びの場としての関心を持ってもらうことを目的とした企画。第1回は、平成29年5月13日に「江差町まちあるきツアー」として実施し、学生27名と教員2名が参加。第2回は、平成29年8月9日～12日の日程で「江差町姥神大神宮渡御祭参加体験」として実施し、学生18名と教員2名が参加。今年度は、学生主体の運営が行われ、学生に対する教育ツールとしての有効性も見ることができた。

（３）観光まちづくりとＤＭＯ

江差町版ＤＭＯの立ち上げ支援と、地域資源の再評価と活用に向けた取り組み、地域資源と地域住民の関係の再構築、政策立案に必要な指標開発を行った。具体的には以下のような活動がある。

ア．「かもめ」を通じた地域資源の再評価に関する研究

江差の文化および自然環境の価値を町民に再認識してもらうための研究を行った。江差の文化に深くかかわる「かもめ」を題材とし、文化のどこに「かもめ」が登場するのか、現在の江差では、実際にどんな種類のカモメが見られるのかを調査した。また江差屏風に見られる動植物についても調べ、過去にどのような生物種がいたのか、それが現在の江差の自然とつながりがあるのかを調査した。それらの成果を、平成29年12月9日に江差町民に向けて講演を行った。

イ．観光の経済効果の指標に関する研究

本研究では、江差町における観光の経済効果を測定する指標について、3段階で検討した。具体的には、まず、域内経済循環の理論に基づき、観光の経済効果を測定する指標として、江差町の観光産業の観光売上高（域外からの資金流入を表す指標）と域内調達率（域内での資金循環を表す指標）の2つを設定した。次に、平成24年「観光地域経済調査」（観光庁）のデータを用いて試行的に2つの指標を作成し、江差町における観光の経済効果について考察した。最後に、今回作成した指標の限界を挙げ、江差町が指標作成のために独自で調査を行う際、注意すべき点を示した。なお、本研究の内容は、江差町町役場とのウェブ会議にて報告を行った。

ウ．八大龍王神八江聖団に関する研究

地域資源の再評価に関する研究の一環として、江差に深く根差し、夏には勇壮なお祭りを繰り広げる神道系の宗教団体である「八大龍王神八江聖団」に関する予備的調査を行った。とりわけ、平成29年8月8～9日にかけて開催された宵宮祭並遷霊祭、本宮夏季例大祭御神輿渡御祭においてフィールドワークを行い、祭の特徴を把握した。

エ．法華寺通り商店街再生に向けた活動

地域資源の再評価に関する活動として、今年度、新たに法華寺通り商店街の再生プロジェクトに着手した。今年度は、まず、商店街のイベントに学生が参加することで商店街の状況を観察するとともに、今後の活動へ向けての信頼構築を行った。次に、商店街の再生策を検討するため、文献調査とフィールドワークを交えながら、学生が中心となって商店街の課題を抽出するための調査を進め、再生案をまとめた。この再生案は、政策アイデアコンテストで発表された。

（４）地域支え合い講演会・意見交換会（まちづくりカフェ）

今年度は「江差町民総活躍まちづくりセミナー」として開催した。2年目を迎えた今年度の主な取り組みは、昨年度からの参加者が考えた地域生活課題解決のためのプロジェクト（処方箋）を、実際に試行（治療）してみることで、地域の互助体制の強化に近づけているか、またそれらが住民たちの主体的な声や手によって進められたかについて、自己評価してきた1年であった。スタートから2年目のまちづくりカフェは、地域生活課題を住民自らの力で地域を診断し、地域住民×地域包括支援センター×大学の協働によって地域生活課題を解決するプロセスへと進化しつつあり、平成27年4月の改正介護保険法の施行により創設された生活支援体制整備事業の準備を急ぐ、道や道内の各自治体や市町村社会福祉協議会からも注目されつつある。

（５）えさし研修

地域創生人材の育成を目標とした研修事業。今年度は、学生1名（2年生）を、平成29年8月～平成30年3月の日程で派遣した。受け入れ先は、江差追分会事務局を受け入れ先として「誰もが親しみやすい『江差追分』を目指して」というテーマで取り組んだ。昨年度は江差に長期滞在する研修であったが、今回は、授業の合間に

江差に通うスタイルで行われた。研修前半では、平成29年9月15～17日に開催された第55回記念江差追分全国大会の事務局員として、大会の実施に裏方として関わりながら課題を見つける作業を行った。その後、江差町民と江差追分の関係性をテーマとして、江差追分会事務局と共同調査を行っている。調査結果は、来年度初頭の報告会で町民と共有される。

（６）政策アイデアコンテストへの参加

地域創生人材の育成を目標とした学生の研究活動。地域政策学研究室の学生が、江差町の活性化に向けた政策提言を作成し、「第2回はこだて学生政策アイデアコンテスト」（主催：一般社団法人はこだて地方創生研究会）、「地方創生☆政策アイデアコンテスト2017」（主催：内閣府地方創生推進室）、「第1回和歌山県データ利活用コンペティション」（主催：和歌山県庁）に参加。政策提言の作成にあたっては、江差町役場、江差町商工会、法華寺通り商店街組合のご協力をいただいた。3年生のチームは「第2回はこだて学生政策アイデアコンテスト」で優秀作品アイデア賞を獲得。

２．知内ソーシャルクリニックの実践

今年度は、昨年度までの検討に基づき、知内ソーシャルクリニックのあり方を、コミュニティ単位かつプロジェクトミッションごとの短期型ソーシャルクリニックと位置付けた。その上で、以下の活動を行った。

（１）小谷石再生プロジェクト

継続して行われている活動。今年度は、再生の中核となる組織の立ち上げと運営に関する検討を行い、課題を抽出した。また、食をテーマとしたワークショップを行い、コミュニティビジネスの立ち上げを支援した。さらに、地域資源や地域再生に関する意識等のインタビュー調査、町民運動会、小谷石まつりといった地元のイベントなどに学生が参加することで信頼醸成を行った。

（２）涌元小学校におけるコミュニティスクール

学校教育と地域づくりをテーマとした活動。今年度は、北海道教育庁による支援の下、観光と地域をテーマとした授業を、地域住民を講師に迎えて実施した。授業は、3・4年生向けで、担当教員が、企画監修、導入授業を担当する形で支援した。また、児童を観光大使に任命し、児童が地域住民と交流することで地域を巻き込む仕掛けを作った。

３．函館ソーシャルクリニックの立ち上げに関わる活動として、次のテーマに関する実践的研究を行った。

（１）函館市におけるカラス被害

函館市において、カラスのごみ被害の問題を解決するために、どのようなごみが漁られるかを調査し、論文として発表した。

（２）第三国定住難民受入に向けた地域協働体制の構築

函館・道南地域における労働力確保の一つの手段として、外国人雇用の可能性を模索してきた中小企業家同友会函館支部との協働事業。同支部が地域への定住を前提とした外国人雇用の本格的検討に入ったことから、今年度の取り組みとして、第三国定住難民受け入れに向けた地域協働体制の構築を行った。その結果、函館・道南地域の中小企業の間で第三国定住難民事業に関する理解が進み、数社が難民受け入れを表明するに至った。また、既に難民を雇用している他地域の中小企業とのネットワークも形成され、難民雇用や外国人雇用に関する情報交換が行われるようになった。さらに、多様なアクタ

一の協働による函館での取り組みは、難民の第三国定住を進める日本政府や難民支援団体などから受け入れ候補地として高く評価されることとなった。

（３）函館景観まちづくりの取り組み

函館の景観まちづくりに函館市と協働して取り組む活動。函館における景観まちづくりの取り組みは、1988年に制定された「函館市西部地区歴史的景観条例」から30年目の節目を迎えた。これまでの景観行政の検証作業が行われ、現在、今後の取り組みの方向性が模索されている。その中で、地域における目標の共有とビジョンの作成が課題となっている。2017年3月には、景観まちづくりに関連する市民団体や民間企業が一堂に会する地域協働ラウンドテーブル「Ｄｏ！はこだて」を市役所と協働しながら開催した。今年度は、「Ｄｏ！はこだて」参加団体を中心に、市民団体や経済団体など28団体が集まった「函館景観まちづくり協議会」が設立され、新たな地域協働体制が動き始めることとなった。

今後の研究プロジェクトの推進計画
・3地域におけるソーシャルクリニックの実践事例を蓄積しつつ、過去2年間の実績の批判的検証に基づき、ソーシャルクリニックのモデル化を進める。 ・3地域におけるソーシャルクリニックの実践が、地域の自律的な課題解決力及び人材養成の点から地域と学生にどのような影響を与えているのか検証作業を進める。 ・江差町の地域力に関する指標開発を行う。 ・江差町の観光まちづくりとＤＭＯ形成に関わる支援を引き続き行う。 ・江差町における観光と地域経済の関係を継続的に数値で把握していくための独自の調査を設計・実施し、収集したデータの集計を行う。 ・江差の歴史文化と自然環境の関係性に関する教材開発に関する研究を行う。 ・まちづくりカフェは、現状ではまだ「汎用モデル」とは言い難いが、多くの自治体でも活用できそうなユニークなヒントは多分に含んでいるため、来年度は江差との協働モデルの他地域における適用可能性について試行する。 ・知内町・涌元小学校との協働を継続して進めるとともに、知内高校における地域学・観光学の授業開発・実施に着手し、学校教育分野における地学協働モデルの整備を進める。 ・中小企業家同友会函館支部との協働を継続し、函館・道南地域における第三国定住難民受け入れ体制の整備、外国人雇用に関する仕組みづくりを支援する。 ・平成 30 年度に函館で開催される「開港５都市景観まちづくり会議」の準備などを通じて、「函館景観まちづくり協議会」の参加団体との協働を進め、景観まちづくりの取り組みに関する協働体制の構築に取り組む。

教育現場や地域で活用可能な成果等
・江差町・知内町・函館市において、各地域のステークホルダーとともに地域課題の解決に向けて取り組むための仕組みが整備された。 ・江差ソーシャルクリニックの一環として行った観光まちづくりと江差町版ＤＭＯ形成支援では、江差町の観光まちづくり分野における地域資源の再評価、調査・研究、人材育成に寄与した。 ・江差ソーシャルクリニックの一環として行った大学による「まちづくりカフェ」への支援 によって、地域住民が主体的に地域課題を解決・低減するための工夫を考えることができる体制づくりに貢献した。また、地元の中高生や本学学生がのべ58名参加しており、地域課題について年齢を超えて一緒に考える舞台装置として、教育現場や地域の取り組みにも示唆を与えることができた。さらに、社会福祉の枠組みを超え、ときには地域学や、経済学、公衆衛生、教育等の多彩な「ゲスト」も議論に交わり、世代や属性、専門分野を越境したユニークな議論が展開されるように

なってきている。この取り組みは、北海道や道内自治体などから注目を集める取り組みになっており、他地域への展開も期待されている。

・江差ソーシャルクリニックの一環として行った江差の自然環境調査結果によって、江差の地形がどのようにして生まれたのか、それによって、どのような自然が生まれ、そして、それを基にどのような文化が育まれたのかを、ストーリーをもって説明できる可能性がある。

・江差町が観光の経済効果に関する独自の調査を行う際の参考となるように、既存調査のデータを活用して、試行的に江差町の観光の経済効果を測定する指標を作成し、その限界を整理した。

・知内町立涌元小学校にて観光と地域に関する授業を企画監修した。

・函館・道南地域における第三国定住難民受入の地域協働体制の構築に向けた基礎がつくられた。

・函館景観まちづくりに関する地域協働体制が構築された。

研究成果の公表実績

【著書】

池ノ上真一著「事例2・1　函館：北の海港都市のシェアリングヘリテージ」、饗庭 伸・鈴木伸治編著『初めて学ぶ都市計画（第二版）』平成30年3月20日、市ヶ谷出版社、pp.146-147

【学術論文】（投稿中も含む）

石川 尭海, 荒 奏美, 三上 修（2017）「どのようなごみ収集容器であればカラス類に荒らされないのか：函館市の事例」Bird Research 13 巻 p. A43-A53

【学会発表、シンポジウム、セミナー、演奏会、展覧会、競技会、普及啓発イベント等】

七飯町歴史館 夜の博物館「身近な鳥の生活」平成29年度9月6日 七飯町歴史館　七飯町民10名

江差町教育委員会主催「なにカモメかモメよう！」平成29年12月9日　江差町　江差町民約40名

江差町まちづくりカフェ　Season-2の開催

回数	主なテーマ	参加者数
第1回 6/9(金)	「ものづくりカフェ」&「自給自足」 ～健康づくりはまちづくり～	一般30／学生13／見学2／計45
第2回 7/14(金)	やってみよう！ ～いいよ！私たちがレールをひこう～	一般25／学生11／見学2／計38
第3回 9/8(金)	やってみよう！ ～いいよ！私たちがレールをひこう～(Part2)	一般30／学生4／見学9／計43
第4回 10/13(金)	やってみたよ！どうだった？ ～動き出したよ、みんなのプロジェクト！～	一般27／学生9／見学11／計47
第5回 11/10(金)	繋げていこう！みんなのプロジェクト！	一般22／学生13／見学8／計43
第6回 12/12(火)	平成29年度成果報告会	一般20／学生8／学20／計48

※「学生」には、中学生・高校生・大学生を含む。

（一社）北海道中小企業家同友会函館支部主催、北海道教育大学函館校地域協働推進センター・（財）北海道国際交流センター共催「函館支部８月例会～戦略的外国人雇用の実践から学ぶ～」平成 29 年 8 月 23 日　北海道教育大学函館校　80 名

<table>
<tr><td colspan="2">【テキスト、報告書、研修資料等】
池ノ上真一、他編『小谷石再生プロジェクト特産品開発ガイド』平成30年3月、200部
江差町編『江差の町ごよみ』平成30年3月、２万部
北海道教育大学函館校地域協働推進センター編「平成29年度ソーシャルクリニック活動報告 書」、300部、平成30年3月31日</td></tr>
<tr><td>添付資料</td><td>・【論文】石川 尭海，荒 奏美，三上 修（2017）「どのようなごみ収集容器であればカラス類に荒らされないのか：函館市の事例」Bird Research 13 巻 p. A43-A53
・【新聞記事】江差追分にふさわしいカモメの鳴き声は―函教大生卒論で考察（北海道新聞平成29年10月31日16面）
・【イベントチラシ】なにカモメかモメよう！
・【新聞記事】まちづくりカフェ　膨らむ話題　地域の課題（北海道新聞平成29年6月30日夕刊12面）
・【新聞記事】高齢化の町住みやすく江差で「まちづくりカフェ」（北海道新聞平成29年10月25日21面）
・【リーフレット】小谷石再生プロジェクト特産品開発ガイド
・【政策アイデアコンテスト報告資料】地域コミュニティの強化～法華寺通り商店街を拠点として～
・【政策アイデアコンテスト報告資料】法華寺通り商店街から道南・江差町を元気にする</td></tr>
<tr><td>ダウンロード可能なドキュメント</td><td>北海道教育大学函館校地域協働推進センター編『北海道教育大学函館校ソーシャルクリニック平成29年度活動報告書』</td></tr>
<tr><td>関連URL</td><td>北海道教育大学函館校　地域協働推進の取り組み
http://www.hokkyodai.ac.jp/info_area/hak.html</td></tr>
<tr><td>問い合わせ先</td><td>氏　名：古地　順一郎
電　話：0138-44-4354
E-mail：koji.junichiro@h.hokkyodai.ac.jp</td></tr>
</table>